

1事例目	2事例目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービスにこだわらず、カラオケや編み物など趣味活動に参加する。</li> <li>・カラオケできるデイサービスなどに参加する。</li> </ul>	<p>成年後見人など将来的に必要なと思われるので、本人の兄弟などに相談しておく。</p>
<p>痛み、ふるえ緩和が課題と感じた。主治医への情報提供方法として、薬局にはトレーシングレポート(報告書)がある。薬を受け取っている薬局へ相談してみてもどうだろうか。</p>	<p>専門医への相談。後日でもいいので、専門医からのコメントをいただけるととても良いと思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前の趣味活動の友人の方々とスマートホンを活用して交流の機会を持っていただく。</li> <li>・ボランティアの方による外出支援や同行援助を増やしてもらいたい。</li> </ul>	
<p>高齢者の方が増えているが、山間部の方だと車がない生活では不自由となるため、送迎や買い物支援サービス(運転や荷物の運搬)が増えてくると良い。</p>	
<p>訪問マッサージの導入。手当て、直接身体に触れてほぐしてもらうことは、痛みや辛さの軽減以上にメンタルケアが期待できると思うので。</p>	
<p>地域とのかかわりは好まれないので、資源としては難しいが、孫の協力で外出や本人の興味のある活動ができればと思う。 例えば、TikTokやYouTubeでお花の生け方の動画をあげるとか、一緒にカラオケに行く、など。</p>	<p>地域での趣味講座(1年に数回)</p>
<p>孫の介助ができる範囲で、家の中での活動をする。(移動が段差のあるところが多いようであるが、リハビリを兼ねてすると本人のモチベーションにもなるのではないかなと思う)</p>	<p>本人の好きなことや興味あること(興味関心チェックシートでは、絵手紙や絵を描く、編み物など)ですぐにできそうなところからやってみると、できることが増えて本人も楽しさを感じるにつながるのではないかなと思う。</p>
<p>おしゃべりをしたりできる友だちがいるのか、可能であれば友だちと会う機会を孫に協力してもらって作ることができるといいのではないかなと思った。</p>	
<p>近隣の介入を好まないと言われつつも、興味関心チェックシートの「友達とおしゃべり・遊ぶ」に“してみたい”と意欲があるので、外に出向くことに関心を持っていけたらと思った。歌、ゲーム等趣味が合う方々とは打ち解けることができるように感じた。</p>	<p>関わり方について、専門医のアドバイスの下、ボランティア団体等インフォーマルな関わりの中で話を聞いてくれる人が心の支えの一つになって、不安の軽減に繋がれば…と思った。その関わりの中で“楽しみ”を見つけることができたらいいと思う。</p>
<p>同じ地域に住む者として、顔をつなぎ、時々声をかけたいと考える。少人数の顔を知った方々が時々会うと心がほっとしていただけるのでは？</p>	
<p>減量(←可能な範囲で有酸素運動の提供も)できれば、より歩行時の膝痛軽減につながると思った。</p>	<p>集団での作業は、他者に喜んでもらえたり使ってもらえたりするようなもの等を製作できると、よりモチベーションにつながるかも？と思った。</p>
<p>本人は近隣の介入を好まない方というより、手助けを受ける立場になりたくない、対等でありたい、弱い自分は見せたくない、という気持ちが強いのかな、と感じた。(興味関心チェックシートの“友達とおしゃべり遊ぶ”で“してみたい”と選択しているが、本人の言動にギャップがあるため)</p>	

<p>元々、近隣との付き合いがないのであれば、そのままでもよいのではないかと思います。ADLの低下については、退院後であるため、訪問のリハを導入して状態の確認や回復に向けて検討してはどうだろうか。</p>	<p>本人の話に寄り添い傾聴しているケアマネは、関わり方としてよいのではないかと思います。本人が他者に話を聞いてもらうことで自分に言い聞かせているようでもあるので、本人の頑張りに対して前向きな声掛けができるようにしていければよいのではないかと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のように支援者が対応についての助言を求める場所が、暮らしの会議だけでなく、身近にあるといいかとも思った。</li> <li>・専門職(リハ職)の方の経験を聞く機会は貴重だし、医師のご意見も参考になった。</li> <li>・「若い」の心と体の変化を知れる「ハンドブック」みたいなものがあると若い支援者は想像しやすいかも。</li> </ul>	
<p>お話ボランティアの訪問提案</p>	<p>自分で出来る事も多く、色々な事とのバランスで現在の生活が成り立っているようであり、今の訪問や見守りを続ける事で大きな変化や動きに対応できたら良いと思った。</p>
<p>スマホで撮った写真や動画での交流ができればよいと思う。TikTokをしているようなので、さらに使いこなしてみても。事前に同じ趣味の方を紹介して交流してみてもは？ 使い方や交流の仲介をしてみる。</p>	<p>入所された近所のなじみの方に手紙を書く時に自分で撮った近隣の自然の写真(絵)にコメントを添えて差し上げるのはどうだろうか。誰かの為に写真(絵)を贈る事を楽しい、嬉しいと感じる事ができたらいい。お世話になる兄弟さん宛でもいいと思う。</p>
<p>リンパマッサージも「体に触れてもらう」安心感が得られるかもしれないので、導入する意味はあると思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な近所とのお付き合いがあるので、地域の行事のお手伝いに誘ってもらおう。</li> <li>・お母さんとの暮らしぶり、思い出をコーディネーターに聞いてもらう。</li> <li>・「辛抱」も奪わないので良いのでは？</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者交流が出来る場所</li> <li>・軽度で働ける場所</li> </ul>	
<p>住民の習い事のニーズと、その人が持つ資格で指導することのマッチングをする支援</p>	
<p>リハ職同行訪問、サービスCの利用</p>	<p>精神科デイケアの利用</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の介入を好まない人であっても、民生委員や福祉員、地域福祉コーディネーター等、実態把握する役割のある人はいるので、必要に応じて情報共有できればいいと思った。</li> <li>・とても多才な人なので、自宅でミニサロンを開催する。</li> <li>・以前は健康体操の指導をしていたので、指導動画を撮って、これまで指導してきたところで放映して、メンバーに見てもらうなどする。人の役に立っているということを実感してもらうことで、生きがいの持てる生活が送れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンへの参加を促す。</li> <li>・インスタントカメラで撮った写真を出展する。</li> </ul>